

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学報 第258号 2018年11月3日

OCHADAI GAZETTE Autumn, 2018



多様性を包摂する女子大学で学ぶ

CONTENTS

TOPICS

学長からのメッセージ 1-2 附属学校園からのお知らせ 7-8

学生のアクティビティ 3-4 キャンパス点描 9-10
お茶女時代

教員紹介 5

- 馬橋 英章先生
(基幹研究院自然科学系助教)

卒業生紹介 6

- 横溝 真莉奈さん
(文教育学部 言語文化学科卒業)

- 学部オープンキャンパス2018を開催しました
- 文部科学省エントランスにて、生活工学共同専攻の企画展示を実施しました
- トランスジェンダー学生の受入れについての記者会見を開催しました
- AO入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました
- お茶の水女子大学附属小学校が創立140周年記念式典、記念シンポジウムを開催しました



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

多様性を包摂する 女子大学で学ぶ

学長からのメッセージ

近年、「女性が社会で活躍することは当たり前」という考え方が、若い人たちを中心に、広まって来たように感じています。実際に女性が活躍できる場は、昭和末期からの法整備を足掛かりとして、格段に広がりました。しかし、それでもまだ、女性が多様な場で職業人として活躍することにハードルがあることは否定できません。日本では特に、政治、経済、理工系の分野での女性の参画・活躍が難しい現状があります。

制度上の問題も大きいのですが、これらの課題の根底に「政治は男性の仕事」「女性は管理職に向かない」「女性は理工系が苦手」「女性は感情で動き、男性は理性で動く」「細やかな心遣いは女性の特質」などといった、無意識に植え付けられた男女の役割に関する先入観や偏見が存在し、これがいろいろな場面で負の影響を及ぼすことがあります。そして、本人の職業選択の際や、周囲が能力を評価する際に、判断をゆがめることにもなってしまうのです。若い世代やシニア世代に対する偏見も存在し、例えばIT関連の業界や職種では、若手に斬新な発想やイノベーションを期待する一方で、シニアの能力を実際より低く見積もるといった例もみられます。こういった先入観・偏見を「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」と呼びます。

最近、報道でも取り上げられ、話題になっていることですが、残念なことに、日本における女性活躍の状況を示す様々な指数等は、世界各国と比べて、かなり低い数値となっています（以下、2017年における調査報告）。

例えば、OECD（経済協力開発機構）による就業率ランキングでは、日本はOECD加盟41国の中で26位と低く、女性の就業率は73.9%で、トップのアイスランド（86.4%）とは、まだ大きな隔たりがあります。就業率が80%以上の上位には北欧諸国やヨーロッパ諸国が並んでいます（OECD Employment Outlook 2017 - Books - OECD iLibrary）。

また、世界経済フォーラムの調査によるジェンダーギャップ指

数は、世界144か国中114位と、悲しくなるような低い数値となっています。この指数は、「経済活動への参加と機会」「教育達成」「健康と生存率」「政治的発言力」の4項目からジェンダーギャップ（男女の差）を数値化し、差が小さい国から順にランキングしたものです。日本は「健康と生存率」以外は極めて低いランキングとなっており、特に、経済、教育、政治などの分野で男性との差が大きいことがわかります。この調査でもまた、アイスランドが1位となって居り、ランキング上位を北欧諸国が占めています（The Global Gender Gap Report 2017 | World Economic Forum）。

英国誌「エコノミスト」がOECD加盟国中29カ国を対象に、「高等教育を受ける機会」「労働参加率」「賃金格差」などの10項目に、男性の育児休暇取得率も加えて調査した「ガラスの天井ランキング」でも、日本は26位と低迷しています。ガラスの天井とは、「女性の社会進出を妨げる見えない障壁」のことで、その原因としては、経済活動への参加や、女性管理職の割合の低さが挙げられます。ランキング上位にはまた北欧諸国が並び、それらの国々では、企業等の管理職や国会議員にも女性が多いことが知られています（The best and worst places to be a working woman - Daily chart）。

さらに、列国議会同盟（IPU）による世界の女性議員の割合ランキングでは、調査対象の193か国中142位（13.1%）と、これもまた低い値となっています。日本では、特に地方議会で、「政治は男性のもの」という意識が根強く残っている現実があります（Women in Politics: 2017 | Inter-Parliamentary Union）。ちなみに、アフリカ、北欧、中南米に女性議員が多い国（42～56%）が見られます。

これらの調査結果から、諸外国に比べて、まだまだ日本では女性が活躍できる環境が整備されていないことが理解できると思います。また現実には、女性が十分に自身の力を発揮できない状況があることを目にすることもあるだろうと思います。でも、だか



らと言って、悲観的になる必要はありません。困難な状況を変え、男女が手を携えて共に生きる環境を創ることは、決して不可能なことではなく、その鍵は皆さんの手の中にあるのです。皆さんのご両親や祖父母の方々が生きて来られた時代には、女性が学問をすることへの偏見や、女性は家庭を守るものという固定観念さえありました。現在、様々な制度が整っている北欧諸国でも、最初から女性にとって活躍しやすい環境があったわけではなく、自分自身の資質・能力を活かし、夢を実現したいと考える女性たちや、それを支援する男性たちが声を上げ、その声を行政が十分に活かして、本気になって取り組んできたからこそ、現在の充実した環境や制度が出来上がっているのです。

全ての人たちが、特に女性たちが、その能力を活かして幸せに暮らせる社会を作るために、お茶の水女子大学は、その創設当初から、自分とは異なる価値観や考え方をを持った人々と深く理解あい、異なる生き方をしている人たちと互いに切磋琢磨しながら、自らを成長させていくことのできる人材を育成することを目指して来ました。そして、2004年の国立大学法人化に際して、『学が意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する』とのミッションを掲げ、学びたくても学ぶことのできない環境にある開発途上国の女性たちをも含めて、国籍や年齢を問わず、その成長と資質能力の開発を支援する活動を推進して来ました。

私たちは、「SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)」(http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)を実現するために、これからの社会を創る女性たちが、アンコンシャス・バイアスから解放され、大学という学びの場で、自らの価値を認識し、社会に貢献しようとする精神を育む必要があると考えています。

そして、それができるのは、女性が旧来の役割意識などから解放され、自由に自身の資質・能力を開発できる女子大学であ

ろうと思っています。画一的な固定観念にとらわれず、自ら責任をもって、活動の中心に身を置き、どんなことにも挑戦できる女子大学での経験は、皆さんの自立心を高め、皆さんが学業を終えて変化の激しい社会に出て行った際にも、柔軟な思考力と適切な判断力の下で力強い歩みを進め、平和で幸せな社会を創ることに貢献できると信じています。

さらにお茶の水女子大学では、教職員・学生・同窓会・保護者の方々との意見交換や、トランスジェンダーの研究者、当事者、日本と米国の女子大学の方々などの情報交換を通じて、2016年からトランスジェンダーの学生の受け入れについて検討を重ねてきました。そして、固定化された既存の性の枠組みを超えて、戸籍性は「男性」であるけれど、自分で認識している性が「女性」であるトランスジェンダーの学生の入学を、2020年度から受け入れることを決定し、本年7月10日に記者会見を行いました。「性」が明確に二分化されるものではないことが、これまでの様々な学術研究からも明らかにされていることから、全ての女性の夢の実現を目指す「女子大学」が、性自認が「女性」である学生を、女性として受け入れることは自然の流れであり、またこれからの多様性を包摂する社会への対応としても当然のことと考えたのです。トランスジェンダー学生の受け入れは、性による差別をはじめとする多様な偏見や差別のない環境を創ることであり、全ての女性の幸せに資する社会環境を創るものとなると信じます。将来、多様な価値と人々が交錯する社会で生きていく皆さんにとって、多様性を包摂するキャンパスで学ぶことは、大きな力となることでしょう。

2018年11月
お茶の水女子大学長 室伏 きみ子

学長からのメッセージ

学生のアクティビティ お茶女時代

11月3・4日にお茶の水女子大学の学園祭「徽音祭」が開催されると
いうことで、徽音祭実行委員の5名に
取材をしてきました!



副委員長
嶋 千瑛美さん
文教育学部
人文科学科3年



イベント部局長コンテスト担当
道本 千尋さん
文教育学部
人文科学科3年



委員長
青柳 里咲さん
文教育学部
人文科学科3年



渉外部局長企業担当
阪本 彩加さん
文教育学部
言語文化学科3年



副委員長
久保 美聡さん
生活科学部
人間生活学科3年

実行委員をはじめたきっかけは…?



入学前から徽音祭実行委員になりたいと思っていたので、立候補しました。



中高ずっと学園祭委員だったので、大学でもやりたいなと!



お祭りが大好きで、実行員も当然のようになりました(笑)



ずっと学園祭の実行委員に憧れがあり、委員を決める場では真っ先に手を挙げました(笑)



徽音祭に足を運んだ時にピンクのはっぱを着たいと思ったことがきっかけです。

続けてきた理由は…?



もっと色々な人を楽しさを知ってほしいと感じたからです。



花形と大変な仕事の両方を経験したかったのと、メンバーが楽しかったからです!!



他大の学園祭に負けていないと自信をもって言えるようになりましたと思って、最後まで続けてきました。



自分の思い描く学園祭に近づきたいという想いがあったからです。



頑張っている後輩の姿を見て、一緒に頑張ろうとここまでできました!

やりがいを感じたときは…?



周りの人から「今年の徽音祭も期待してるよ!」と声をかけてもらえたときです。



家族や友人に実行委員長をやっていると話して、「じゃあ行こうかな」と言ってもらえたときです!

嬉しかったときは…?



学園祭という非日常な空間をつくることで、お茶大生がいつもと違う自分になれる場を提供できていると実感した瞬間です。



学園祭後のグランドフィナーレで感極まって涙した時に、一番感情が高まりました!



自分たちで作ったスタンプラリーに何千人も参加してくれたときですね。それで笑顔になってくれる人を見るのが当日の喜びでした!

今回の準備中の裏話は?



今年は水コンファイナリストのお披露目写真の衣装を袴にしたのですが、その調達が大変でした。その甲斐あってか写真の反響も大きく、ぜひ皆さんにも注目してほしいです!



今年は床や立て看板の装飾にもこだわったので、当日見に来てほしいです!

来場者へひとこと!



老若男女、お茶大生含め、みなさんが楽しめる学園祭にしますので、ぜひお茶大の魅力を発見しに来場してください!!



微音祭 オリジナルファイル 紹介



昨年人気のデザイン
に加え、今年は
新デザインも登場！

名物企画

水コン

外見だけでなく内面も輝く、
お茶大生が憧れるお茶大生を
決定するコンテスト。

お茶パラ

枠に囚われず、多様なお茶大生の
あり方を発信します！

きいちゃん
プロフィール
見てほしいのよ



きいちゃん 総選挙参戦！

微音祭公式マスコットの
妖精、きいちゃん。
学園祭マスコット総選挙で
3連覇を目指している。



学園祭 & 妄想マスコット総選挙

<https://contest.gakumado.mynavi.jp/mascot2018/photos/detail/1>

◆ テーマの由来 ◆

「時代」には様々な時代の日本文化を体験できる
場にしたという想い、「独自性」にはお茶大
独自の良さを広く世間の方にも知って頂きたい
という想いを込めました。

「時代」×「独自性」 お茶大時代

おすすめ 企画リスト

微音祭の歌姫

朝一で歌声を響かせます！

ていーちゃん 誘拐事件

昨年好評だった脱出ゲームの
リニューアル企画。
学内全体を使った謎解きイベント。

おちゃとも

学園祭で友だちを作れる!? 現在企画進行中!

フリーマーケット

昨年よりも規模を拡大して開催。



編集後記

取材に答える微音祭実行委員の方々の表情がとても輝いていて、各々微音祭に対して熱い想いをもちていることが伝わってきました。「お茶大のよさをみんなに知ってほしい」という気持ちで準備に全力を注いでおり、当日がますます楽しみになりました!! ぜひみなさん微音祭に足を運んでみてください!

ちなみに私は広報アテンダントとして、受験生向けにお茶大の情報発信をしています。大学見学会やツイッターの更新もしているの、ホームページやツイッターもチェックしてみてください!

文責: 文教育学部人間社会学科3年 鈴木 悠加



教員紹介

今回は、基幹研究院自然科学系助教 馬橋英章先生をご紹介します。馬橋先生は大学院ではライフサイエンス専攻 食品栄養科学コース、学部では生活科学部食物栄養学科にご所属です。



サイエンスの世界はわからないことだらけ
常にアップデートしながら学び、
何が正しいかを考える

Mabashi Hideaki
馬橋 英章

Q ご出身、ご経歴について教えてください

県立千葉高校を卒業後、東京大学農学部、同大学院に進学し、農芸化学を専攻しました。この学問を選んだのは、高校時代、遺伝子のことがわかれば「生きている」ことの意味が理解できるのではないかと考えたことがきっかけです。学生時代には、クルマエビを使って、目のなかにあるホルモン、特に血糖値や脱皮などを制御するホルモンのメカニズムの研究に取り組みました。実験材料となる生きたエビを築地市場に買いに行ったこともあります。実際に研究に取り組んでみると、生物の仕組みは遺伝子レベルであっても簡単には理解できないことばかりであることはすぐにわかりました。

Q 大学院修了後にアメリカの大学に留学されたそうですね

博士課程修了後は、アメリカ中西部のワイオミング大学に7年間留学しました。ワイオミング大学は、ララミーというロッキー山脈の標高2000メートルを超える高地にあります。ワイオミング州では石油も採掘されるのですが、大学には天然資源に関する専攻があったり、高地ならではの気象や天文学に関する学科があったりという特徴がありました。私は分子生物学科のラボに留学し、そこでは昆虫培養細胞を用いてヒト医薬を産生するための研究を行いました。タンパク質医薬と呼ばれる高価な医薬品には表面に様々な糖が付加していることが多く、その糖の構造が薬効に影響を及ぼす例があります。そこで、その糖の構造を自在にデザインすることが可能な細胞を作り出すのが主な仕事でした。

留学には家族を連れていったのですが、ララミーは田舎なので犯罪が少なく、とても安心して暮らす

ことができました。安全面から、これから女子学生が留学する学校の選択肢の1つとして、田舎の大学はありかもしれません。田舎プラス異文化での生活から、日本文化を異なる面から考えるよい機会となりました。

Q 現在のご専門は？

これまで取り組んできた遺伝子工学の知見を栄養の分野に応用して、「栄養工学」という専門を確立させたいと思っています。遺伝子工学の研究は、病気の原因を探したり、薬をつくったり、医薬の世界には役立てられています。栄養に関しては、まだ基礎研究も応用研究も十分でないと感じています。例えば、低糖質食の流行や各種サプリメント摂取の是非など、その理由やメカニズムがはっきりと解明されていないものが多くあります。わかっていないことや曖昧なものを少しずつクリアにしていくこと、また技術的に不可能であったものをアイデアで乗り越えていくことを目指しています。

Q お茶大ではどんな授業を担当されていますか

アメリカ留学を終えた2017年6月にお茶大の助教に着任しました。ライフステージ栄養学、生化学などの学部講義を担当しています。学生の印象は、真面目で、吸収が早い、です。まだ手探りしながらですが、学生さんの何かしらのアンテナに刺激を与えられるような講義を心掛けています。

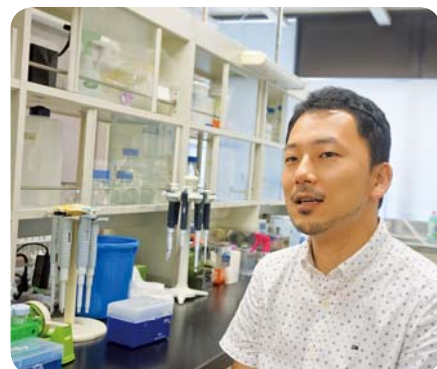
1年生向けの生活科学概論では「葉酸」についてのニュース記事を取り上げ、その内容を正しく理解するためにはどうやって調べたらよいかを学生たちに尋ねました。驚いたのは、インターネットで得られる情報は信用できないと多くの人が考えていたことです。もちろん中には間違えたものも多くありますが、だからといって全てが参考にな

らないわけではありません。同じ用語でも日本語と英語のウィキペディアでは、情報の量や質も異なります。特に英語のウェブページには、エビデンスが示された記述もあります。授業では、たくさんさんの情報のなかから、何が正しいかを考える姿勢が大事だということを伝えました。その他、授業では最新の知見を取り入れることを心がけています。そのために、教員も常にアップデートしていかなければと思っています。

Q 学生へメッセージをお願いします

柔軟な考え方ができる人になってもらいたいと思っています。サイエンスの世界はわからないことだらけですが、これから解明されてくることもあります。これまで常識とされていたことが変わっていく可能性も十分にありえます。変わっていくことを前提にしながら、情報の調べ方やそれらをどう考えるかを学んで身につけてもらいたいです。学生のみなさんは新しい知識や情報を吸収する力をもっているのです。むしろ、私の方が固定的な考え方を押しつけないように気をつけたいと思っています。

文責：基幹研究院人文科学系准教授
難波 知子



卒業生紹介

日本の空の安全を守る

将来の仕事を意識しながら どのような学生生活を 送っていましたか

私が航空管制官という仕事を知ったのは、高校生の時に航空管制官を特集したテレビ番組を見たのがきっかけでした。航空管制官とは、航空機が安全かつ秩序よく飛行できるようパイロットに対して指示を出すことで空の交通整理を行う仕事です。空の安全を守る縁の下での力持ちである航空管制官の仕事に憧れ、私も空の安全を守る一員になりたいと思い、目指すようになりました。航空管制官は英語力が不可欠な仕事であることもあり、大学では英語学を専攻し、特に子どもの言語習得について学びました。また、塾講師のアルバイトやサークル活動にも参加し、様々な経験を行うことができました。大学2年の頃から航空管制官に関する情報を集め、採用試験に向けて勉強を開始し、アメリカのカリフォルニア大学での語学研修に参加するなどして英語力向上に努めていました。

現在のお仕事に就くまでの 経緯を教えてください

航空管制官は国土交通省に所属する国家公務員であり、航空管制官採用試験に合格しなければなりません。そのため、民間企業の就職活動と並行して採用試験に向けて勉強をしていました。航空管制官採用試験は、一次試験から三次試験まであり、適性試験と英語試験（筆記・ヒアリング・会話）があるのが特徴です。適性試験については、航空管制官として必要な記憶力、空間把握力が試される筆記試験と、航空管制業務のシミュレーションによる試験があり、試験対策にはとても苦労しました。

採用試験に向けて1年以上勉強して無事試験に合格することができ、2016年4月に航空管制官基礎研修課程研修生として採用されました。採用後は大阪府泉佐野市にある航空保安大学校に入学し、1年間（現在は8ヶ月間）の基礎研修を受けました。航空保安大学校では、航空管制に関する学科と実技の研修を受け、航空管制の基本的な知識と技術を身に付けます。同期とともに寮生活をしながら研修を受けることで、航空管制官の仕事に不可欠なチームワークを学ぶことができ、同期は私にとってかけがえのない存在となりました。航空保安大学校での研修を修了すると全国各地の官署に配属され、現場で訓練と試験を受けて航空管制官の資格を取得します。私は羽田空港敷地内にある東京空港事務所配属されました。



Yokomizo Marina
横溝 真莉奈

東京航空局東京空港事務所 管制保安部航空管制官

埼玉県出身

2012年4月 お茶の水女子大学文教育学部
言語文化学科入学

2016年3月 お茶の水女子大学文教育学部
言語文化学科英語圏言語文化コース卒業

2016年4月～ 国土交通省航空保安大学校航空管制官
2017年3月 基礎研修課程

2017年4月～ 東京航空局東京空港事務所
管制保安部航空管制官

現在のお仕事内容を 教えてください

一人前の航空管制官として働くには、現場での訓練を経て、数々の試験に合格して資格を取得しなければなりません。東京空港事務所では大きく分けて2つの業務があり、それぞれの業務を行うには別々の資格が必要になります。1つ目の業務は、管制塔で、航空機に対する離着陸許可、地上走行経路の指示などにより交通整理を行う飛行場管制業務です。2つ目の業務は、管制塔とは別の建物にあるレーダー運用室で、レーダーを用いた航空機の誘導などを行い、空港周辺の交通整理を行うターミナル・レーダー管制業務です。



私はターミナル・レーダー管制業務の資格を取得するために日々現場での訓練に励んでいます。空港から出発するたくさんの航空機を、限られた空域の中で目的地に向けて誘導し、秩序ある交通流を形成します。また、ひっきりなしにやってくる到着機のスピード、針路をコントロールしながら、安全で効率的な間隔を設定し、空港に着陸させます。何百人というお客さまを乗せた航空機を相手にしているため、業務中はかなりの集中力と緊張感を要しますが、何事もなく業務を終えられたときやパイロットから“Thank you”と言ってもらえた

ときには大きなやりがいを感じます。一人前の航空管制官として業務をするにはまだまだ訓練を重ねなければなりませんが、一日も早く資格が取得できるようこれからも努力していきます。

在学生へのアドバイス・ メッセージをお願いします

私はこの仕事に就いてからこれまでに何度も困難に直面してきました。どんなに苦しい状況でもくじけずにここまで続けて来られたのは、これまで培ってきた粘り強さと、同期や友人の支えがあったからです。ですので、学生の皆さんには色々なことに挑戦し、何か1つのことをやり抜く経験をしてほしいと思います。何かをやりきったという経験が、これから社会に出て壁にぶつかったときに必ず役に立つはずです。

また、学生時代の友人やこれから出会う人たちのつながりを大切にしてください。私は資格取得のための試験を受ける直前に訓練があまりうまくいかず落ち込んでいたのですが、同期や友人に相談してアドバイスをもらったことで、自信をもって試験に臨むことができました。その結果、試験に合格することができ、大きな達成感と喜びを感じました。学生時代の友人は皆さんにとって非常に大きな存在になるので、大切にしてほしいと思います。

文責：基幹研究院人文科学系准教授 山腰 京子

わたしのオフタイム

同期と食事に行ったり、趣味のピアノを弾いたりしてリフレッシュしています。

また、長期休暇の際は福岡や那覇にいる同期のところへ遊びに行ったりもします。

附属学校園からの お知らせ ～附属中学校便り～

1年生 グローバルキャンプ 1泊 (異文化体験)

山梨県の富士山が見える富士カームでのグローバルキャンプは、実りのある充実した2日間でした。お天気にも恵まれ、1日目の夕方と2日目の朝、富士山は素晴らしい雄姿をみんなの前に現してくれました。朝礼では富士山を背景に朝日を浴びながらお茶中体操をするという貴重な経験もできました。もちろんメインの目的である英語の学習や異文化体験ということもしっかり取り組むことができました。いろいろな国々から来られているネイティブの先生と授業だけでなく、食事と共に、ずっと一緒にすごした2日間。始めは緊張気味だった1年生もだんだんと慣れてきて最後のスピーチの発表が終わったときは、とてもいい笑顔でした。

附属中学校では「自主自律の精神をもち、広い視野にということ」を学校教育目標に掲げ、日々の教育活動や様々な行事の中でも中心的な行事である宿泊行事を、今年度も宿泊行事での学習内容も系統立てたものとして再スタート。今回6月20日から22日に行われた各学年の宿泊行事に

1年生の様子を見ていて印象的だったのは、「講師の先生と、とても楽しそうにレッスンや活動に取り組んでいたこと。」「1日の間にずいぶん英語の話し方が変わっていたこと。」「スピーチの準備にとても真剣に取り組んでいたこと」です。そして日本語(母国語)以外の言語環境に置かれ、十分にコミュニケーションがとれない状況で不安を感じたり、少し困ったりしたという体験も実は異文化理解という点ではよい学習だったと思います。そうした経験があればこそ、日本にいる外国人が困ったりとまどったりする思いも理解したり、共感できたりすることにつながるからです。自分が異文化の中に身を置くことで、逆の立場(日本という異文化の中にいる人)を考える良い機会にもなりました。

文責: 1年学年主任 市川 千恵美

2年生 志賀高原林間学校 2泊 (ESD, 環境学習)

自然と人間社会の共存を目指すユネスコエコパークである志賀高原で、コミュニケーション・デザイン科(=CD科)の学習の一環として、環境学習プログラムをベースとした学習に取り組みしました。

緩衝地域にある自然探勝コースのトレッキングや核心地域を目指した志賀山登山コースの登山では、湿原に生えるモウセンゴケや岩を巻き込んだ大木の影に輝くヒカリゴケ、エメラルドグリーン色の湖水の大沼池など、志賀高原の豊かな自然に触れることができました。

志賀高原ガイド組合のガイドの方や信州大学自然教育研究施設の先生など、志賀高原で自然と関わって暮らしている方々

3年生 東北修学旅行 2泊 (震災学習, 民泊)

今年度から青葉の季節の修学旅行となりました。岩手県南部の平泉・花巻・遠野、そして被災地釜石にも向かう2泊3日盛りだくさんの行程です。今回のテーマは「一期一縁 出逢いを大切に」歴史や文化をいかにまちおこしの様子や、震災復興・人口流出などの課題と向き合いながらよりよい地域作りをする人々から学び、CD科で1年次より取り組んできた『共生』『多様性』に開かれた社会に向けての学びを深めたいというねらいです。釜石を訪れるにあたり、事前学習では、齋藤真先生(元・釜石東中教員)をお招きして「釜石の奇跡」由来の被災体験講話を伺い、復興途上の釜石市鶴住居地区では、宝来館の女将さんの、被災後の歩み、そして未来につながる熱いお話を聴きました。

た。1日目には、遠野市職員の方より「遠野で民泊を受け入れている意味・意義」についてのお話を伺い、お客様ではない、共に生活する一員として民泊に臨みました。作業や手仕事、食事の支度など、様々な活動を通じて、人とのつながりの大切さや、共によりよく生きるために必要なことは何かをそれぞれが感じ取ってくれたかと思います。解村式では、受け入れ先のご家庭の皆様を前に「青葉の歌」を合唱しました。今回のご縁を大切に、更に広げていけることを心から願っています。

文責: 3年学年主任
君和田 雅子

「立って行動する生徒を育成する」
な行事等に取り組んでいるところです。
ら6月下旬に各学年一斉に行い、
トいたしました。
ついてご紹介いたします。



から人間と自然の共生についてお話をお聞きする機会もあり、最終日のディスカッションでは、大自然での体験をもとにこれからの自分に何ができるのかという具体的な行動について意見を出し合うことができました。

夜には、大自然の中でのキャンプファイヤーやフォークダンス、クラススタンプ、花火を楽しみました。各クラスで練習を重ねてきたスタンプはどれも大成功で、思い出に残る時間を過ごすことができましたようです。

「大自然に触れる」1日目、「大自然に挑む」2日目、「大自然を考える」3日目を通して、日常生活では味わうことのできない貴重な体験ができ、これからの自分に何ができるのかを考えるきっかけになったことと思います。

文責：2年林間学校担当 有友 愛子



附属学校園での出来事 (2018年7月～9月)

【いずみナーサリー】

7月

- 七夕
- 避難訓練 (地震・火災)
- すいかわり
- いずみナーサリーの日
- ライフ&アート展参加
- 水遊び・プール遊び
- 寒天遊び

8月

- 避難訓練 (不審火対応)
- 夏野菜収穫・調理
- 水遊び・プール遊び

9月

- 引き取り訓練
- いずみナーサリーの日

【附属中学校】

7月

- 第1回学カテスト (3年)
- 保護者会、お茶の子バザー
- 夏休み開始

8月

- 夏休み終了
- 第II期教育実習
- 第2回学カテスト (3年)

9月

- 郊外園 (2年)：大根の種まき、サツマイモ畑の雑草取り
- 自主研究発表会 (保護者参観日)
- 生徒祭

【附属高校】

7月

- SNSについての研修 (1年)
- 筑波大学附属高校との合同キャリア講演会 (1年)
- 学カテスト (1年)
- 保護者会 (1～3年)
- お茶大英語サマープログラム (1・2年生24名)
- 終業式

8月

- 東工大サマーチャレンジ (3年生7名)
- イオン アジアユースリーダーズ in ジャカルタ (2年生5名)
- APCG2018 in バンコク (1・2年生8名)
- 理数1日体験授業 (中学生73名)
- 生物学・物理学フィールドワーク (3年生19名)
- 学カテスト (3年)

9月

- 始業式
- 第II期教育実習
- 文化祭
- 第2回学校説明会
- 進路講演会 (2年)
- ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム (1・2年生40名)

【附属幼稚園】

7月

- 誕生会・七夕
- 幼稚園説明会
- 終業式
- 5歳児有志 チャボ・畑の世話
- 夜の園庭でセミの羽化を観察する会
- ライフ×アート展参加

8月

- 同窓会「ちぐさ会」園庭草刈りボランティア

9月

- 始業式
- 生きもの博物館
- 学級懇談会
- PTA主催 講演会
- 避難訓練
- 遠足 飛鳥山公園 (4歳)

【附属小学校】

7月

- 保護者会
- 情報モラル講習会 (5・6年、保護者)
- 芝生補植 (保護者ボランティア)
- 防犯教室
- 終業式

8月

- 登校日 (4・5・6年)
- 林間学校 (4・5・6年)

9月

- 始業式
- 不審者対応訓練
- 保護者会
- 開校140周年記念式典
- 栄養教育実習
- 通学班別会
- 校外学習 (1年)

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

学部オープンキャンパス2018を開催しました

2018年7月14日(土)～16日(月)の3日間、学部オープンキャンパスを開催しました。今年は特に猛暑が厳しい中、6,500名を超える受験生や保護者の方々にご参加いただきました。

昨年に引き続き、各学科・講座・コースの説明会場が来場者の集合場所となり、大学の教育の特色、奨学金や学生寮についての説明がありました。その後、各学部・学科・講座・コースの説明、模擬授業



学科説明会



模擬授業（食物栄養学科）

や在学生による相談、研究室ツアーなど工夫を凝らしたプログラムが実施されました。

新たな取り組みとして、事前申込者による学長への質問コーナーが開催されました。受験希望者と学長との間で活発な質疑応答がなされ、終始和やかな雰囲気で行われました。

また、今年4月にリニューアルオープンした附属図書館、昨年より開催しているAO入試（新フンボルト入試）説明会をはじめ、各種相談・質問コーナー、歴史資料館、お茶大の学園祭（微音祭）情報コーナー、大学生協食堂体験や大学グッズ販売コーナー等にも、連日多くの方にお越しいただきました。

来年度も引き続きオープンキャンパスを実施いたします。開催時期が決まりましたら、大学ホームページでお知らせいたします。皆様のお越しをお待ちしております。

文部科学省エントランスにて、生活工学共同専攻の企画展示を実施しました

文部科学省エントランスにおいて、8月21日(火)から9月24日(月)まで「ライフスタイルに合わせた科学技術の創造～生活工学の推進」をテーマとする企画展示を行いました。

お茶の水女子大学と奈良女子大学が共同で推進している生活工学共同専攻は、安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学的手法に基づき解決できる人材を育成しています。また、生活者視点からの工学の推進、そして人と暮らしを中心とした物づくりの実践を通じて、学際融合型の生活工学教育・研究を展開しています。本企画では、共同専攻の趣旨・特徴、教育研究環境、研究例などをパネル展示するとともに、具体的な研究成果物を展示することで、訪問者の皆様に「生活工学」の理念や意義を紹介しました。

9月18日(火)には、文部科学省「情報ひろばラウンジ」で企画展示イベントとして、「歩行計測靴デバイス」体験会を実施しました。来

場者は歩行計測靴デバイスを装着し、実際に何回か歩行したあと、その場で静止立位機能・歩行機能の評価結果のフィードバックが行われました。また、希望者には生活工学の趣旨説明、ならびに生活工学共同専攻の説明会も開催されました。「立つ」、「歩く」という日常的な動作を再認識し、生活工学の魅力を体感したイベントとなりました。



説明会の様子



歩行計測靴デバイス

トランスジェンダー学生の受入れについての記者会見を開催しました



記者会見の様子

7月10日(火)にトランスジェンダー学生の受入れについての記者会見を開催しました。本学は、自身の性自認にもとづき、女子大学で学ぶことを希望する人(戸籍上男性であっても性自認が女性であるトランスジェンダー学生)を2020年度の学部および大学院の入学から受入れることを決定しました。これは、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」

AO入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました

「新フンボルト入試」導入後3回目となるプレゼミナールを2018年9月29日(土)・30日(日)に実施しました。2日間で、受験生173名を含むのべ480人が参加してくれました。

このプレゼミナールは、受講者をAO入試の受験生だけに限定するのではなく、広く高校2・3年生にも開放して行う点に大きな特徴のひとつがあり、受講生にお茶大の校風や大学という知的世界を実地に体感してもらえる機会ともなっています。



セミナー(文系)の様子



全学説明会の様子

プレゼミナール1日目は、文系諸分野から6つのセミナー、理系からは7つのセミナーを開講し、担当の教員がそれぞれ熱のこもった授業を行いました。1日目のセミナー受講者は364名にのぼります。

2日目は、台風接近というあいにくの悪天候のなか、受験生以外の高校2・3年生を対象とした図書館情報検索演習を午前、午後を開講し、また理学部生物学科では大学院生による研究ポスター発表と教員による自主研究課題相談会を行い、のべ116名が参加してくれました。

従来の入試は、大学が受験生を一方的に選ぶだけのもの、受験生にとっては合否がすべて、というものだったと思います。それに対してこの新型AO入試は、(誤解を恐れずに言えば)「合否にかかわらず」何かを得られる入試、大学での学びとはどのようなものであるかを体験し、その上でお茶大でぜひ学びたい、と思ってもらえるような入試を目指しています。来年もこの新フンボルト入試に、多くの意欲的な高校生がチャレンジしてくれることを期待しています。

お茶の水女子大学附属小学校が創立140周年記念式典、記念シンポジウムを開催しました

お茶の水女子大学附属小学校は、明治11年(1878年)に東京女子師範学校附属練習小学校として開校し、今年で創立140周年を迎えました。

開校記念日である9月20日(木)に、文部科学省大臣官房・瀧本寛審議官をはじめ多数の来賓をお迎えし、室伏きみ子学長、池田全之学校長などの大学及び附属学校関係者、卒業生の出席のもと、大学講堂にて記念式典が開催されました。

1年生から6年生までの在校児童634名が出席した式典では、児童による校歌「みがかずば」の斉唱、来賓祝辞に続き、卒業生の戸田奈津子氏によるお話があり、最後は「わたしたちの歌」が歌われました。6歳の1年生から80歳を過ぎる卒業生の方まで、同じ学び舎で学んだ人々が会するひとときを持つことができました。

午後の祝賀会は、卒業生、旧教職員、現教職員、教育後援会会員などが集まり、小学校の今昔を語り合い、卒業生のハープ演奏、保護者ボランティアの活動DVD、保護者らによる男声コーラスなどを楽しみました。

夕方からは、記念シンポジウム『『子どもから』の伝統が拓く明日の教育』を開催し、教育関係者、研究者を交えて、現在の研究開発で創設してきた新教科「てつがく」の意義や可能性について活発な意見交換がなされました。伝統を大切にしつつ、常に新しい教育を世の中に提案していく附属小学校のあり方を示すよい機会となりました。

大学の歴史資料館では、9月20日(木)より11月22日(木)まで、附属小学校創立140周年記念特別展示「お茶小140年のあゆみ」を開催し、多くの方にご覧いただいております。



挨拶を行う池田校長



戸田氏と在校児童の交流

という国立大学法人としての本学のミッション(2004年制定)に基づき、判断したものです。

記者会見には、室伏きみ子学長、三浦徹理事・副学長[教育改革・入試改革・学術情報担当]、猪崎弥生理事・副学長[総務・男女共同参画担当]、森田育男理事・副学長[研究・イノベーション担当]が出席しました。冒頭に石丸徑一郎准教授からトランスジェンダー

について説明があり、その後、室伏きみ子学長からトランスジェンダー学生受入れの経緯や受入れに関する準備等について具体的な説明がありました。多くの報道機関にご出席いただき、活発な質疑が行われました。



写真：写真部ほか

お茶の水女子大学学報 第 258 号

▽発行日：2018 年 11 月 3 日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学報「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。